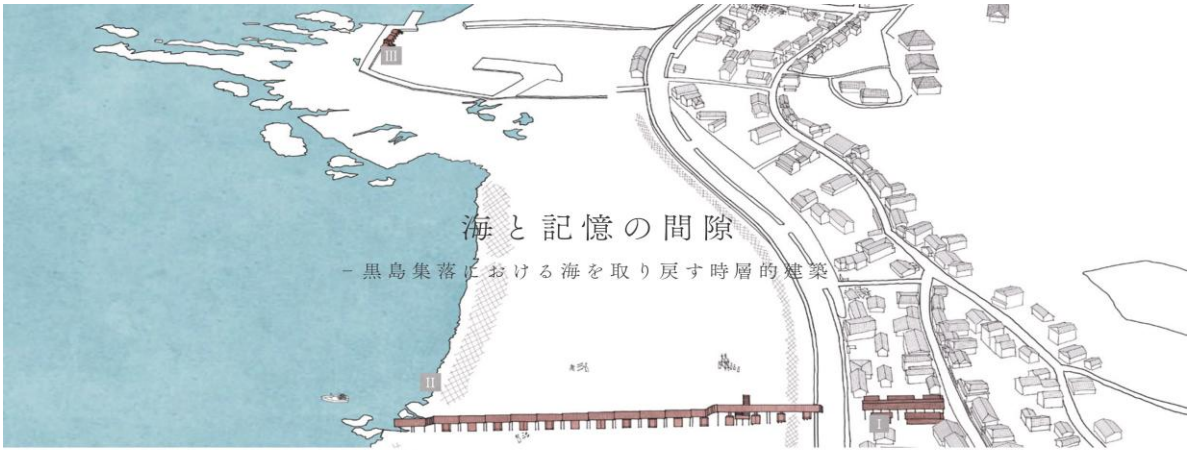
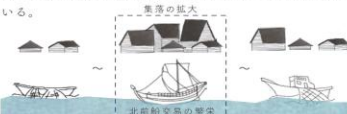


学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2025年	
受賞タイトル	奨励賞	
区 分	Ⅳ. 都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	ナカムラ クミ	
制作者名	中村 来珠	
フリガナ	ダイドウダイガクコウガクケンチクガク	
卒業時の大学 学部・学科	大同大学工学部建築学科	
フリガナ	ムトウ タカシ	職名
推薦者名	武藤 隆	教授
フリガナ	ウミトキオクノカンゲキ -クロシマシュウラクニオケルウミヨトリモドスジソウテキケンチク-	
作品名	海と記憶の間隙 -黒島集落における海を取り戻す時層的建築-	
概 要	 海と記憶の間隙 - 黒島集落における海を取り戻す時層的建築 - 01 背景 01-1. 海とともにある黒島  石川県輪島市門前町の黒島集落は、かつて漁業を生業にして棲みつき、北前船による廻船業で船主集落として栄えた。黒瓦・下見板張り・格子で統一された美しい景観を保っており、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。  黒島の風光 北前船交易の繁栄 01-2. 能登半島地震  2024年1月1日に能登半島地震が発生し、能登半島に位置する珠洲市から輪島市、志賀町にかけて沿岸部の海底が隆起した。黒島集落では、最大で約3.6m隆起し、それに伴い海岸が約200m後退した。中でも黒島漁港は完全に干上がり、船を停泊する機能さえも失った。 02 目的 02-1. 黒島天領祭  高齢化で人口減少が進む黒島では8月になると、かつて北前船交易で栄えた心意気をあらわす黒島天領祭が行われ、毎年多くの人が訪れることで集落に活気に戻る。今は集落内だけを神輿と曳山が巡行しているが、かつては浜や漁港に神輿が降り、海の近くで祭りが行われていた。 02-2. 海を取り戻すこと  「祭りさえあれば、この集落は残っていく。」 祭りを行えるということは、ある程度人が集まっていて集落の社会組織が機能している。つまり祭りさえ行うことができれば、集落をつないでいけるという集落の方のこの言葉。能登半島地震後の8月にも祭りが行われたことから、とれだけ大切にされているかが分かる。本提案では、年に一度多くの人が集まる祭りで、隆起によって広がった土地を踏むことで、何年かけて海を取り戻すことを目的とし、そこにあるべき建築を提案する。 03 提案 03-1. 時間層と間隙  能登半島は、地震による隆起と波の侵食を繰り返すことで、長い時間をかけて形成されている黒島集落。このような長い時間をかけて形成されたものに対して、一瞬の出来事により生じたあいだのことを「間隙」と捉える。 03-2.3 つの間隙  地形や建築物、人々の記憶など様々な時間層を重ね、時間にかけて設計を行う。集落の家屋、海、黒島漁港、これらの敷地に生じた、家屋が解体された場所的な間隙、海岸線が遠のいた平面的な間隙、海面が下がった断面的な間隙。そこに、公民館と2つの桟橋を設計することで、建築によって物理的な間隙を埋める。	

制作者名	中村来珠
作品名	海と記憶の間隙 -黒島集落における海を取り戻す時層的建築-

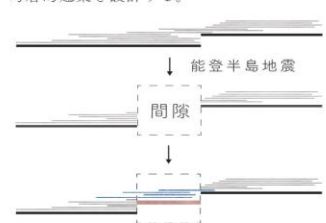
【コンセプト解説】



04 設計手法

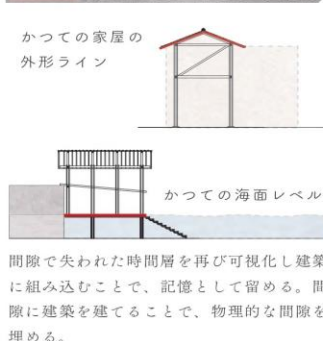
04-1. 間隙を埋める時層的建築

能登半島地震によって生じた間隙を埋める時層的建築を設計する。

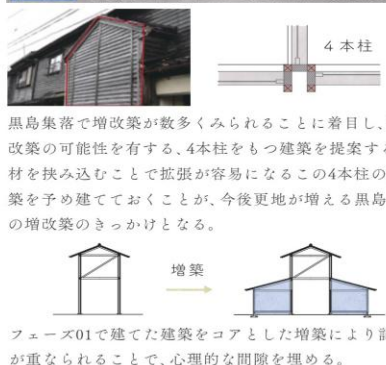


フェーズ01 時間層の可視化（物理的）
フェーズ02 時間層の形成（心理的）

フェーズ01 失われた時間層の可視化

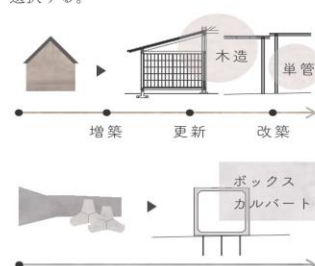


フェーズ02 増築を伴う新たな時間層の形成

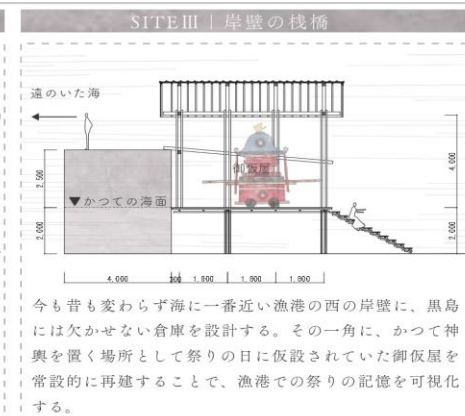
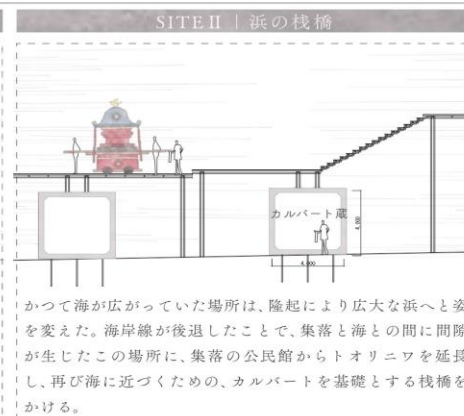
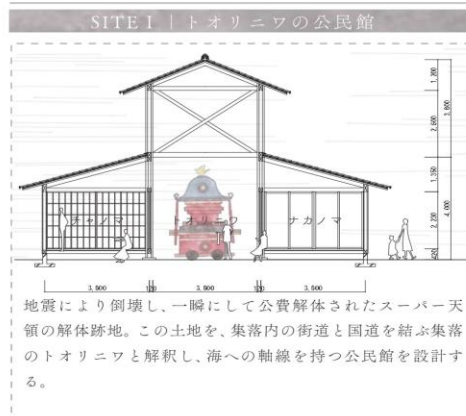


04-2. 素材の選択

重伝建の黒島集落のコンテキストである、増改築される木造家屋に残り続ける土木構築物をもとに、素材の寿命を考え選択する。

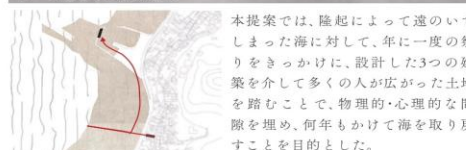


05 3つの時層的建築

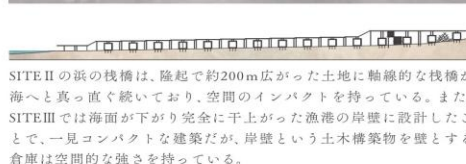


06 空間ディスプレイとしての建築

1. 発想の獨創性



2. 空間のインパクト



3. 生活の質の向上



4. 社会的意義

現地に何度も足を運んで目の当たりにしたが、能登半島地震の復旧・復興は東日本大震災の時よりも遅く、今もなお倒壊した家屋が多く残されている。黒島集落において、集落存続の鍵となる祭りをきっかけに、隆起で広がった土地を踏み、何年もかけて海を取り戻す、そして集落を残していく。当事者ではない私だからこそできる復旧・復興ではない何年も先を見たこの建築の提案は、大きな社会的意義があるのではないかな。今後も祭りに参加するなど、黒島集落に関わり続けたいと考えている。

5. 空間ディスプレイの新しい可能性

空間ディスプレイの新しい可能性として、土木構築物と人の共生を挙げている。環境が変わっても強く残り続けるテトラポットや漁港の岸壁のように、黒島集落に守り残していくものをボックスカルバートやRC造で設計し、人々を守り残していく蔵と倉庫とした。地震が起こり家屋が多く倒壊した集落で、強さのある土木構築物に新たに人の居場所を見つながら、新たな集落の景観ともなる建築を設計した。

